第8課　聖霊と霊の実

【暗唱聖句】

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。働きにはいろいろありますが、すべての場合にすべてのことをなさるのは同じ神です」12:4～6

【今週のテーマ】

今週は聖霊の賜物について学びます。また聖霊の実との違いについても学びます。

【日曜日　霊の実と霊の賜物】

聖霊の実と賜物はどちらも聖霊から来るものですが、両者は同じものではありません。聖霊の実はキリストとつながっているなら必ずなるものであり、クリスチャンとしての成熟の証です。聖霊の実はイエス様の品性であるのでそれはみな同じであり、もし実がなければ切り倒されてしまうと書かれてある通り、それはキリストとわたしたちが一つとなっているかどうかを意味している印でもあります。

それに対して聖霊の賜物は、「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です」（第一コリント12:4）とあるように、種々あり同じではありません。では、何のために聖霊の賜物が与えられるのでしょうか。それは全体（教会）の益となるため、キリストの体を建てあげるために与えられます。

「一人一人に“霊”の働きが現れるのは、全体の益となるためです」第一コリント12:7

聖霊の賜物には小さな賜物もあれば大きな賜物もあって、それぞれが一つの体として機能するために必要なものです。お互いの賜物を比較したり、批判することはできません。

「目が手に向かって「お前は要らない」とは言えず、また、頭が足に向かって「お前たちは要らない」とも言えません。それどころか、体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえって必要なのです…あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」第一コリント12:21～27

わたしたちに求められているのは、それぞれに与えられた賜物に対して充実にそれを用いて生きることです。それぞれが与えられた賜物を用いていくことによって、神様の御業を効果的に、力強く前進させていくことができ、そのあとには神様の栄光だけが残ります。

ただ、これらの聖霊の賜物が人を高慢にすることがあります。そのため聖書はこう付け加えます。

「あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい」第一コリント12:31

「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい」第一コリント13:2

愛は聖霊の実なのですが、それとて自分で勝ち得るようなものではなく、神様からの賜物です。その意味では聖霊の賜物と同じです。この愛を第一に求めて、その上で聖霊の賜物を求めるように勧められています。

【月曜日　神―霊的な賜物の主権を有する与え主】

どのような賜物が神様から与えられるかはわかりません。「これはすべてのことは、同じ唯一の“霊”の働きであって、“霊”は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださる」（第一コリント12:11）からです。

また、第一コリント14:1では、「愛を追い求めなさい」と書かれた後に、「霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい」とあり、聖霊の賜物を求めるように、特に預言に賜物を熱心に求めなさいと書かれてあります。このみ言葉はわたしたちに終末時代に生きる残りの民がイエスの証として持っている特徴の一つとして挙げられている預言の霊を連想させます。

「竜は女に対して激しく怒り、その子孫の残りの者たち、すなわち、神の掟を守り、イエスの証しを守りとおしている者たちと戦おうとして出て行った」黙示録12:17

「わたしは天使を拝もうとしてその足もとにひれ伏した。すると、天使はわたしにこう言った。「やめよ。わたしは、あなたやイエスの証しを守っているあなたの兄弟たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。イエスの証しは預言の霊なのだ」黙示録19:10

預言とは、神様から預かった言葉、それを持っているとは、神様の言葉で生きている、つまり聖書のみ言葉に生きている人たち、それが残りの民の特徴であり、み言葉に生きることによって、その人を通してイエス様が現れてくるのです。これが最終時代のクリスチャンたちの姿です。聖霊の賜物というと特別な力が自分たちに与えられるかのような印象を与えるかもしれませんが、むしろイエス様の力ある業が一人ひとりの働きを通して表され、イエス様が栄光を受けられるのです。

また、聖霊の賜物は恵みとして与えられています。

「しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています」エフェソ4:7

主に対する感謝と喜びをもって、与えられた賜物を生きることが大切です。ところで、生まれつきの才能や能力は聖霊の賜物でしょうか。結論から言えば、聖霊の賜物ではありません。賜物なのですから、本来なかったものが与えられるのです。また、生まれつきの才能や能力はその人の栄光となりますが、聖霊の賜物は神様の栄光となります。ただ、生まれながらの才能や能力を神様の栄光のために捧げていくとき、それは豊かに祝福され、神様の栄光のために用いられていきます。そこに霊的な賜物がさらに増し加わっていくということはあるでしょう。

そもそも、生まれながらの能力とて、神様から来ているのです。

【火曜日　霊的な賜物の目的】

「ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。4:12 こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」エフェソ4:11～13

聖霊の賜物は何のために与えられるのでしょうか。ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者に…とそれぞれ違う働きのために主は召され、またその働きを成し遂げていくために聖霊の賜物が与えられるのですが、それによってキリストの体が造り上げられていきます。これは聖霊が与えられる最大の目的です。聖霊は決してわたしたちの好奇心を満たすために与えられるものではありません。自分を満足させるために与えられるのもありませんし、わたしたちが聖化されるために直接的に与えられるものでもありません。聖化ということであれば聖霊の実がその役割を果たしています。

　しかし、神様の働きをし、キリストの体を建てあげていく過程において、わたしたちは謙遜さを学び霊的に成長させられます。またそこには霊的な感動と喜び、信仰の確信など様々な素晴らしい恵みが満ちています。その結果として、「わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです」。

また、聖霊の賜物はその人個人が栄光を受けるのではなく、賜物の与えぬしである神様が栄光を受けるものです。そのため謙遜であることが何よりも大切で、さも自分は霊的に優れているのだという高慢な心に陥るものには、神様は愛のゆえに賜物を与えることができません。自分の無力さを知り自分を低くするものに、そして他者の徳のために、教会のために働きたいと心から願う者に聖霊の賜物は豊かに与えられるのです。

【水曜日　賜物―昔と今】

聖霊の賜物は新約時代の特定の時代に教会の発展のために限定的に与えられたと主張する人たちがいます。果たしてそれは本当でしょうか。まるで、昔の神様と現代の神様とでは違うかのようです。確かに、第一コリントの13:10に「完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう」というみ言葉がありますので、いつか賜物が必要なくなる時が来るでしょう。それは完全なものが来た時とあるので、イエス・キリストが見える形で再臨されたときです。そのときには完全なものでわたしたちは皆満たされるので、部分的に与えられていた聖霊の賜物は廃れます。しかし、今はまだそのときではありません。使徒時代にそのときが来たわけでもありません。むしろ、世の終わりが近づいてきているいま、一人でも多くの人が救われるためにさらに多くの聖霊の賜物を必要としているのです。

パウロは「霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい」（第一コリント14:1）で述べています。果たしてわたしたちは霊的な賜物を熱心に祈り求めているでしょうか。また祈り求めているとすれば、その動機は何でしょうか。神様の働きのために必要に迫れて祈り求めるというのが正しい姿です。逆に言えば、神様の働きを果たしていきたいという切なる思いがなければ、聖霊の賜物の必要を感じることもなく、それに飢え乾くこともありません。

種々あるという聖書に書かれてある賜物を列挙してみましょう。

第一コリント12:8～10　賜物の種類

「知恵の言葉」、「知識の言葉」「信仰」、「病気をいやす力」、「奇跡を行う力」、「預言する力」、「霊を見分ける力」、「種々の異言を語る力」、「異言を解釈する力」

第一コリント12:28　賜物を活かした働きの種類

「使徒」、「預言者」、「教師」、「奇跡を行う者」、「病気をいやす賜物を持つ者」、「援助する者」、「管理する者」、「異言を語る者」

エフェソ4:11　賜物を活かした働きの種類

「使徒」、「預言者」、「福音宣教者」、「牧者」、「教師」

【木曜日　聖霊を見分ける力という賜物】

聖霊の賜物の中に、霊を見分ける賜物があります。預言や奇跡の賜物と比べると、やや異質な感じを受ける賜物ですが、なぜこのような賜物が教会に必要なのでしょうか。それは聖霊ではなく違う霊、つまり悪霊が働くこと可能性があるからです。

「預言する者の場合は、二人か三人が語り、他の者たちはそれを検討しなさい。」第一コリント14:29

預言の言葉は多くの人に大きな影響を与えます。そのためそれが正しい主から来た言葉であれば良いですが、自分の単なる心の思いだったり、ましてや違う霊から来ているものであれば、それを教会に持ち込むことで大きなダメージとなることがあります。だから、聖書は他の人たちがそれが神様から来ているのかどうか見極めるように指示されています。一つの見分け方として次のように教えられています。

「愛する者たち、どの霊も信じるのではなく、神から出た霊かどうかを確かめなさい。偽預言者が大勢世に出て来ているからです。4:2 イエス・キリストが肉となって来られたということを公に言い表す霊は、すべて神から出たものです。このことによって、あなたがたは神の霊が分かります。4:3 イエスのことを公に言い表さない霊はすべて、神から出ていません。これは、反キリストの霊です。かねてあなたがたは、その霊がやって来ると聞いていましたが、今や既に世に来ています」第一ヨハネ4:1～3

偽預言者が大勢世に出てきていると聖書は警告しています。彼らは違う霊の力を借りて、人を間違った方向に導きます。その特徴は、イエス・キリストを認めないことです。話をよく聞いているとキリストが一切語られません。聖霊ばかり強調されたり、癒しばかりが強調されたり、キリストが出てきません。しかし、イエス・キリストを公に認めているのであれば神様から出ています。

また、賜物に優劣があるわけではありませんので、一部の賜物だけを強調するのもよくありません。わたしたちが間違った動機で聖霊を求めていくならばやがて悪霊の影響を受け、悪霊の力で不思議が行われていくこともありえることです。